THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS
日刊 建設工業新聞

令和6年2月22日（木曜日）

復旧・復興

予備費で機動的対応を

足立参院議員 被災状況受け

能登半島地震で被災した石川県七尾市と穴水町、富山県氷見市を1月31日に視察した自民党の足立敏之参院議員が建設専門紙各社の取材に応じた。迅速な復旧・復興が求められる中、足立議員は政府予算に計上された予備費の支出で機動的に対応できる利点を強調。石川県輪島市、珠洲市を含めて大きな被害を受けた市街地の復興に向け「もともとのたたずまいを生かした街づくりのビジョンをつくる必要がある」との考えも示した。

現地視察では七尾市内で市街地の橋梁損傷や家屋倒壊、和倉温泉の海岸護岸の被害や地盤の液状化の状況などを見て回った＝写真。穴水町に入り自動車専用道路の「のと里山海道」で盛り土箇所の崩落などの被害状況を確認し、地元建設会社による道路啓開現場を視察した。のと里山海道を「能越自動車道のような高規格道路並みに構造的に強化する」必要性を指摘する。

氷見市内の河川では堤防の沈下や根固めコンクリート矢板の倒れ込みなどを確認。「出水期に間に合わせるため早期の原形復旧が必要」と訴える。

復旧事業は以前なら補正予算で対応する必要があったが、コロナ禍を契機に政府予算で予備費を多く計上し機動的に活用する動きが進んでいることで「インフラの迅速な復旧につながる」と強調する。足立議員は輪島市や珠洲市も近く視察する予定だ。